

天皇皇后両陛下主催 宮中晩餐会における
マレーシア国王サイド・シラジュディン陛下のお言葉
2005年3月7日、月曜日

明仁天皇陛下、
美智子皇后陛下、
ご来賓の皆様、
ご臨席の皆様、

陛下のお心のこもった暖かい歓迎のお言葉に対し、王妃と私より、深い感謝の意を表します。また、到着以来、手厚いおもてなしと細やかなお心遣いをいただきありがとうございました。マレーシアと縁浅からぬ両陛下に敬意を表するのは、喜びであるとともに名誉でもあります。両陛下は1970年には皇太子と皇太子妃として、1991年には天皇と皇后としてわが国を2度訪問されておりますが、その時の感激を今もはっきりと覚えています。本日、私どもの初めての公式来日、両陛下のご訪問の思い出を新たに、両国の密接な友好関係をより深めることを切に希望します。

この桜の花咲く国は、独自の文化を保ちつつ工業化と近代化を達成し、訪れる人をいつでも魅了します。その驚くべき経済成長や1980年代の「奇跡」の繁栄は、常に私どもにも勇気と希望を与えています。過去10年間の困難な挑戦にもかかわらず、いったん経済が十分活力を回復すれば、日本は以前にも増して競争力を高め、地域と世界の指導的な国として力を取り戻すと信じています。

陛下、

1957年の国交成立以来、マレーシアと日本が常に友好的で強力な関係を育んできたことを誇りに思います。現在の関係を損なう政治問題はほとんどありません。日本は二国間関係増進に向け、多方面で建設的貢献を行っています。過去数十年間、日本はマレーシアの最も重要な貿易投資相手国のひとつでありました。1982年に始まったルックイースト政策に基づく技術および人材開発事業は、わが国の「ビジョン2020」達成に不可欠であります。文化、観光、教育などの交流を通じた両国民間の相互理解は急速に深まっています。

今日、緊密な関係は新たな段階に入り、両国は経済連携協定（EPA）交渉を開始しました。私どもは本協定を重視し、締結後は幅広い協力がさらに強まるものと確信しています。こうした現在進行中の協力により、両国はその関係をより前進させ、急速に変化する世界においてさらに発展していくことができるでしょう。

陛下、

東南アジア諸国連合の一員として、日本がアセアンを重要な戦略的パートナーとみなしていることを評価します。2003年12月の日本アセアン特別首脳会議において東京宣言と日本アセアン行動計画が調印され、2004年には日本が東南アジア友好協力条約に参加したことは大変意義深いことです。また、2004年12月26日に津波がアセアン一帯を襲った際、日本がいち早く大量の援助救援物資を送ってくださったことに感謝します。「津波」は恐らく現在、世界で最もよく知られた日本語でありましょう。

地域の安定は東アジア諸国の成長と繁栄を左右する主要な要因でありました。共通の地域の一員としてマレーシアは、その成長と繁栄を維持するには地域、ひいては世界全体の安定が不可欠であることを充分認識しています。日本が地域の平和と安定の確保に引き続き役割を果たすよう、マレーシアは希望します。

わたしたちの来日は、最も高いレベルでの絆を固め、二国間関係の歴史の新たな時代の到来のさきがけとなるでしょう。この場をお借りして、天皇陛下、皇后陛下、そして皇室の皆様に対し、近い将来マレーシアにいらっしゃいますようご招待申し上げます。

ご賓客の皆様、
ご臨席の皆様、

それでは、ご臨席の皆様、明仁天皇陛下と美智子皇后陛下のご健康とご多幸、そしてマレーシアと日本の国民の変わらぬ友好を祈願しつつ、乾杯のご唱和をお願いいたします。